

## 2014 年度学術交流支援資金（CSV の考え方をういた環境共生と健康医療サービスと融合するまちづくり手法探索用の汎用プラットフォームの構築）の報告

（科目名：グローバル環境システム）

研究課題：優れた環境取組みを展開する自治体と SFC との研究・教育に関する連携基盤の整備

代表者氏名：小林光（政策・メディア研究科教授）

環境共生と健康医療サービス提供とを融合して進める、マルチベネフィットなまちづくりについては、ますます緊急度が高まっているが、このようなテーマの研究はフィールドで進めることが肝要である。そのようなフィールドトランスに立った研究の基盤づくりとして、本資金を活用し、①日本各地で進む現地のまちづくりに関する情報を整理するフレームワークの構築、②そうしたフレームワークの下での実際のデータの収集・整理、さらに、③これらの知見に基づく政策や組織の在り方の整理を行うこととした。

2014 年度には、このような観点に立った、以下の活動を行った。

- ① ③小林において過年度来収集したまちづくり情報の整理のフレームワークの一案を構成し、地域開発センターの「地域開発」誌に投稿・掲載された。（小林光「環境まちづくりー環境ビジネス立ち上げのヒントに照らしたその現状と課題」平成 24 年 3 月号。）ここには、今後一層、環境・健康等のマルチベネフィットなまちづくりを進めていくための諸提案も併せて収めたので、14 年度にはその普及やディスカッションを進めた。
- ② 2012 年度来連携を強化していた水俣においては、EBA（evidence based approach）のアイディアの下、本塾教員が引率し、ASEAN 地域の大学院生多数を水俣で学習させる仕組みが 2 年目となって定着したほか、2014 年度には同市に設置されるバイオマス発電の在り方に関する研究を展開した。また、この水俣市との間で、本年 2 月に、包括研究協力協定を結び、同市が進める「環境アカデミア機構」の具体化に役割を果たすことになるなど、まちづくり情報の組織的な収集・整理の仕組みと拠点を確保するに至った。また、既に包括研究協力協定の結ばれている富士吉田市では、同市における間伐材を利用した燃料チップのまちにおける活用に関する研究を進めた。このほか、水俣と同様に優れた環境取組みを行っている北九州市においても、学生が、現地の取組みに即した調査研究を行うことが有益なので、小林及び学生 2 人をもって、同市の東田地区のスマートグリッド及び城野地区のエコシティ開発などに関して調査を行い、昨年度に続く継続的なまちづくり情報の蓄積を図った。さらに、新たなフィールドとして、沖縄における自然資源を活かしたまちづくり、地域経営に関する情報の収集を試みた。

以上のように、本資金を活用し、マルチベネフィットなまちづくりの教育研究に供し得る現場フィールドの開拓、情報の体系的整備と活用が各地大いに進捗した。 以上